

翔べ！松中生

令和4年度 第8号 12月1日発行

「1年のまとめ」

校長 齋藤 明

早いもので、令和4年も11月末の期末テストが終わり、残すところ1ヶ月となりました。冬休みが近くなり、気持ちが緩みそうですが、皆さんはしっかりと今年を振り返りながら、自分には「これだ！」と思う令和5年の目標を考えていく時期となりました。

さて、今年1年を振り返ると、まだまだコロナ禍の生活様式が続いていましたが、年間を通して授業時間が確保できたこと、スキー教室・宿泊体験学習・修学旅行などの宿泊行事や体育祭や稲穂祭、中体連の大会なども感染症対策を講じて無事実施できた事は皆さんの良き思い出や経験として大きな収穫になったと思います。実際、3年生の校長面接からも「中学校3年間で一番心に残った事は？」と尋ねると、ほとんどの生徒が学校行事と答えていました。コロナ禍であっても密集・密接をさけながら行う活動が心に残るものだと考えると早くコロナが終息して欲しいと思うところです。

今後の生活様式もコロナ対応の継続となりますが、今までの経験を活かしながら、みんなで安心・安全な学校生活を心がけていきましょう。

また、学びの変化として、GIGAスクール構想での「一人一台の端末の活用」も進んできました。学校での授業はもちろん、現在お願いしている無料教材（9教科）の活用も毎日行うことができますので、家庭に持ち帰り積極的に日々の学習に役立ててください。これからは、端末を操作するスピードなども求められるかもしれません。日ごろから様々な操作に慣れておくことも、とても大切です。

今、全国で先生方の働き方が変わってきています。「教員の働き方改革」という言葉を聞いたことがあると思います。先生の長時間勤務が社会的な問題となっており、早急な改善が求められています。先生の勤務時間は、授業だけでなく、朝夕、休日の部活動、行事の準備、各自に分担されている授業以外の仕事など、多岐にわたります。そのようなことから過労死ラインを超える状況に陥ることがあります。先生は、朝早くから夜遅くまでいるイメージがあるかも知れませんが、勤務時間は8時10分から16時40分までの7時間45分です。夏時間で朝練や午後練をするだけでもかなり超過していることとなります。この長時間勤務がなかなか改善されていないことから、教員志望の学生が年々減少傾向であることも問題とされています。教員の仕事が、生徒と共に心を育て、成長できる魅力ある職業であるという発信も学校に、今、求められています。

松伏中学校でも、先生が教科の授業を磨く時間を確保し、毎日元気に生徒と関わりながら効果的な教育活動を行うために、部活動・学校行事などの教育計画を、全職員で考えているところです。さらに、明るく元気で活気ある松伏中学校にしていきたいです。

最後に、保護者の皆様におかれましては、1年間を通して本校の教育活動へのご理解ご協力、誠にありがとうございました。今後ともお子さまの成長を共に育んでいきたいと思っておりますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。日々の子どもたちの活動につきましては、引き続きホームページの「今日の松伏中」を毎日更新していきますので、是非ご覧になってください。